

Ⅲ 平成18年（2006）の結果

1 がん死亡

（1）部位別がん死亡数

平成18年（2006）のがん死亡数は7,613人（男性4,601人、女性3,012人）であった。部位別に死亡数をみると、男性では肺がんが最も多く、次いで肝がん、胃がんの順に多かった。女性では胃がん、肺がん、肝がんの順で多かった（図1-1、表9参照）。

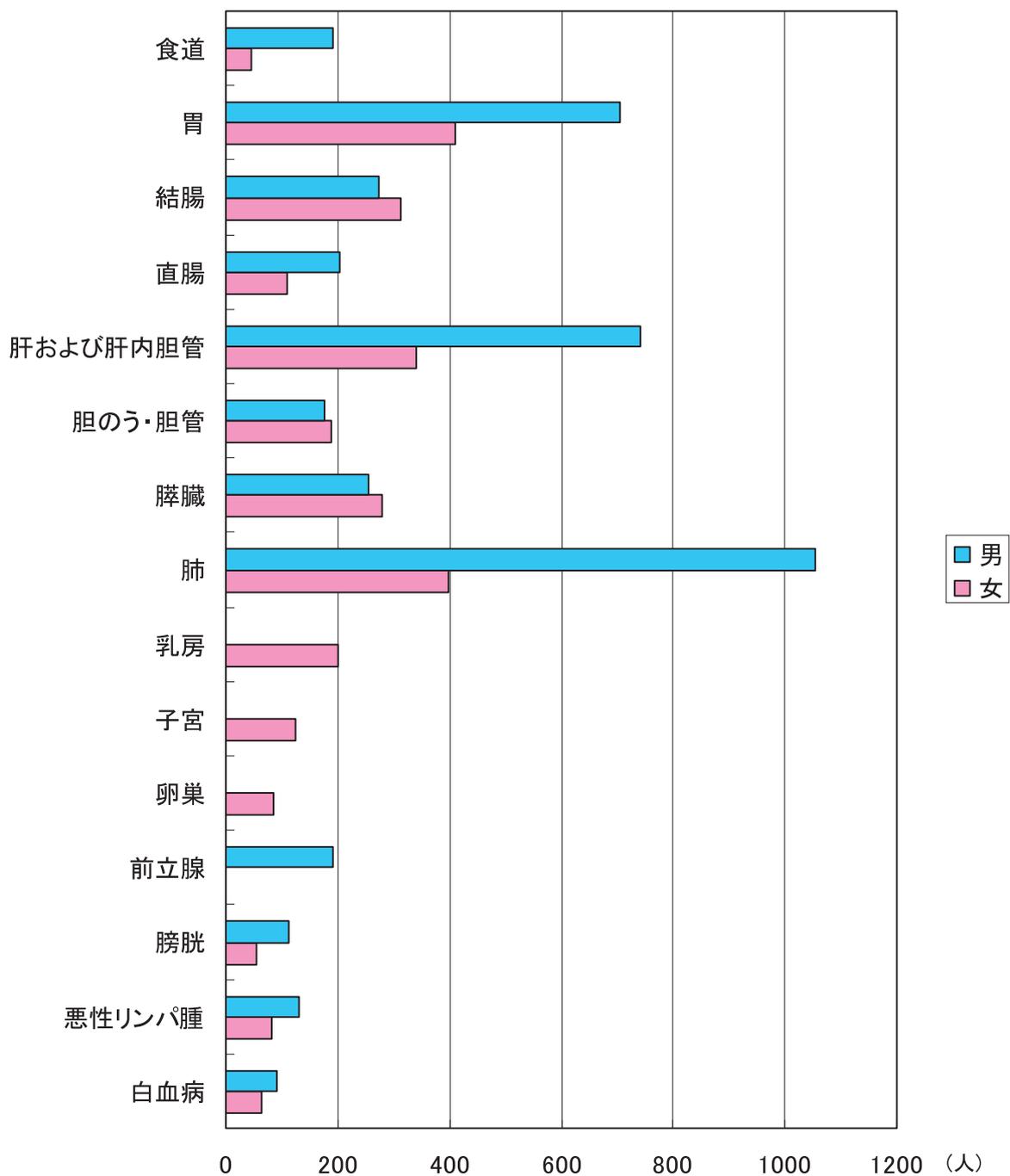


図1-1 部位別がん死亡数

(2) 全国との比較

全国を基準とする標準化死亡比は全部位で、男性が0.99、女性が0.95であった。死亡数の多い部位のうち、男女とも肝がんの標準化死亡比が高かった。(図1-2、付表4-C1参照)

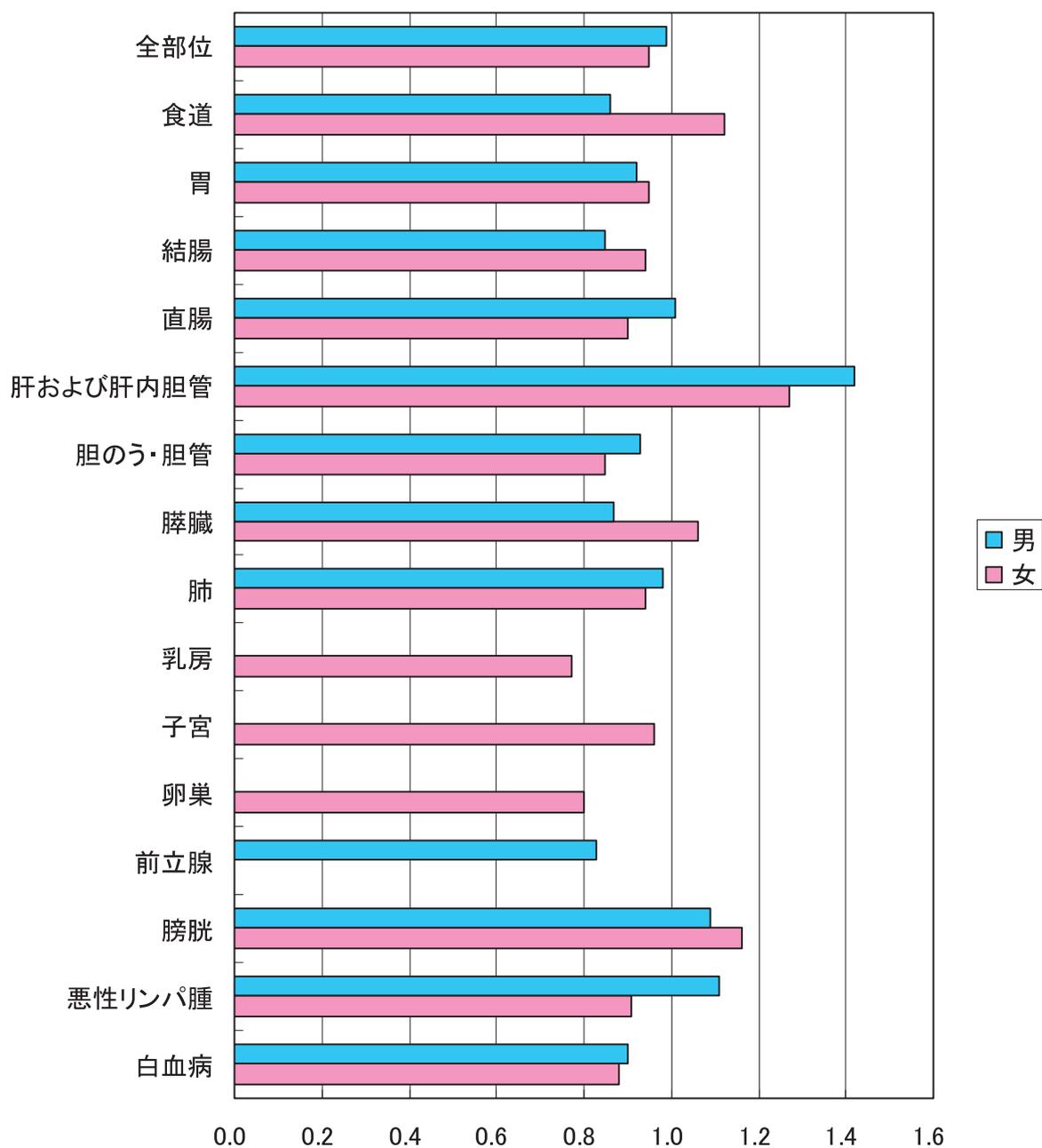


図1-2 部位別標準化死亡比 (全国を基準)

(3) 二次保健医療圏別の標準化死亡比

広島県全体を基準として二次保健医療圏別の標準化死亡比を見ると、全部位については男性では呉地域が1.11と若干高めであったが、その他の地区では差はなかった。また女性では備北地区で0.80と低めであったが、その他の地区では差は見られなかった*。(図1-3、付表4-C2)

*標準化死亡比は95%信頼区間が1を挟んでいる場合は、1と差がないとみなす。

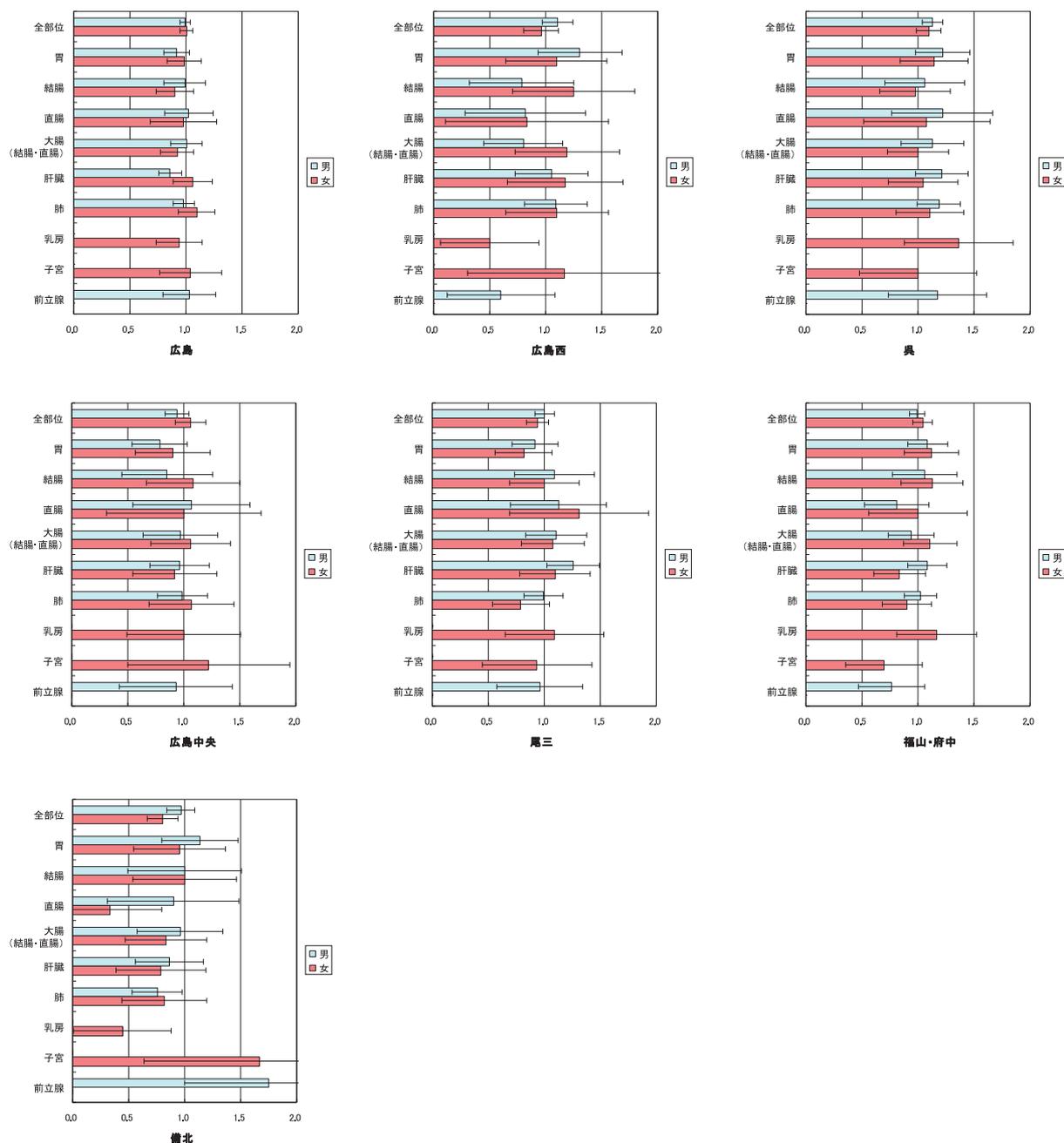


図1-3 二次保健医療圏別標準化死亡比 (広島県全域を基準)

2 がん罹患

(1) 登録精度（上皮内がんを除く）

DCN 割合は全部位で15.7%（上皮内がんを含むと14.6%）であった。昨年度は19.4%（上皮内がんを含むと18.2%）であり、登録の完全性の精度がさらに向上した。部位別にみると、予後不良の部位において高く、膵臓がん、多発性骨髄腫、胆のう・肝内胆管がん、肝がん、肺がんで30%前後であった。DCO 割合は全部位で6.3%（上皮内がんを含むと5.9%）であった。DCN 割合から10%近く減少したのは、遡り調査の成果である（図2-1、表8-A参照）。

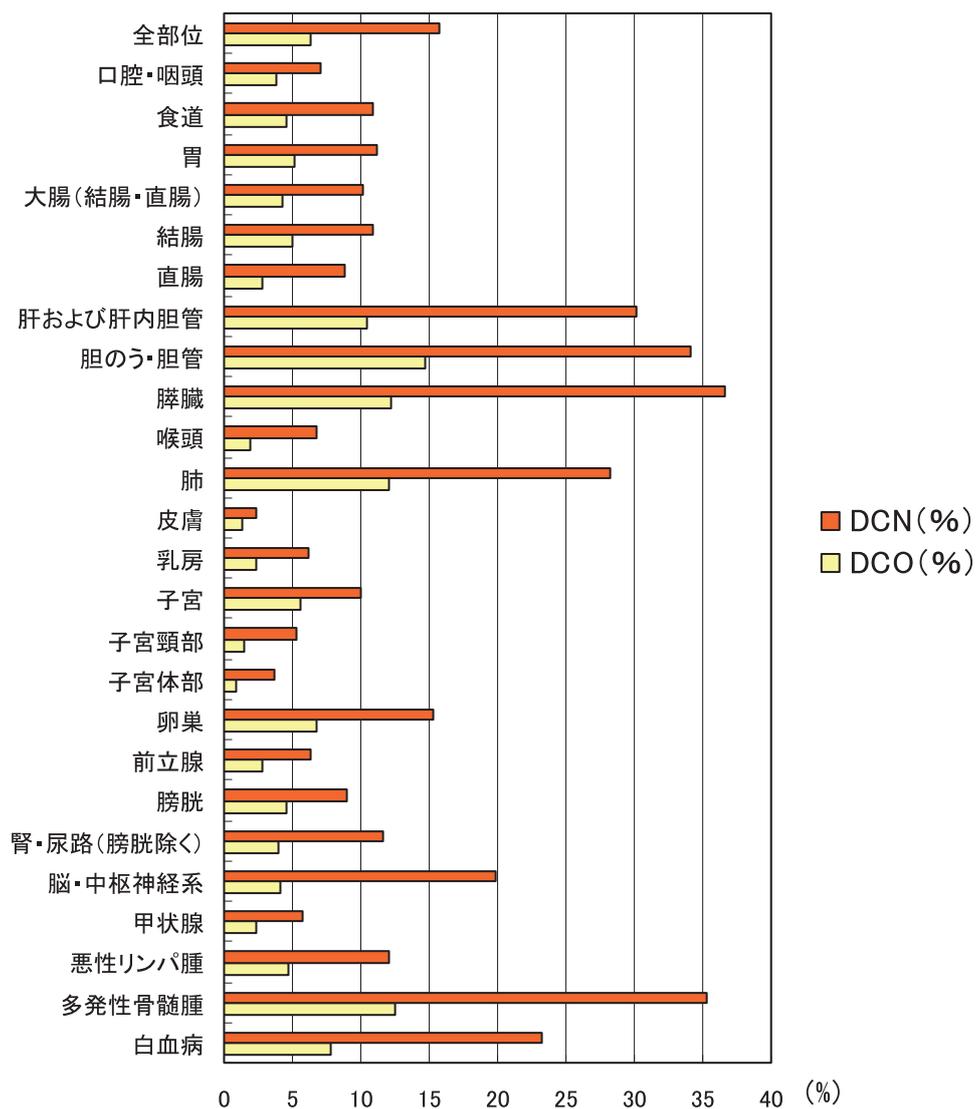


図2-1 部位別 DCN 割合・DCO 割合

ID比は全部位で2.35（上皮内がんを含むと2.53）であった。昨年は2.45（上皮内がんを含むと2.62）であり、昨年より減少がみられた。DCN割合・DCO割合が高い部位でID比は低くなる傾向にあった。皮膚がん、甲状腺がんなど予後が良好な部位においてID比が高かった（図2-2、表8-A参照）。

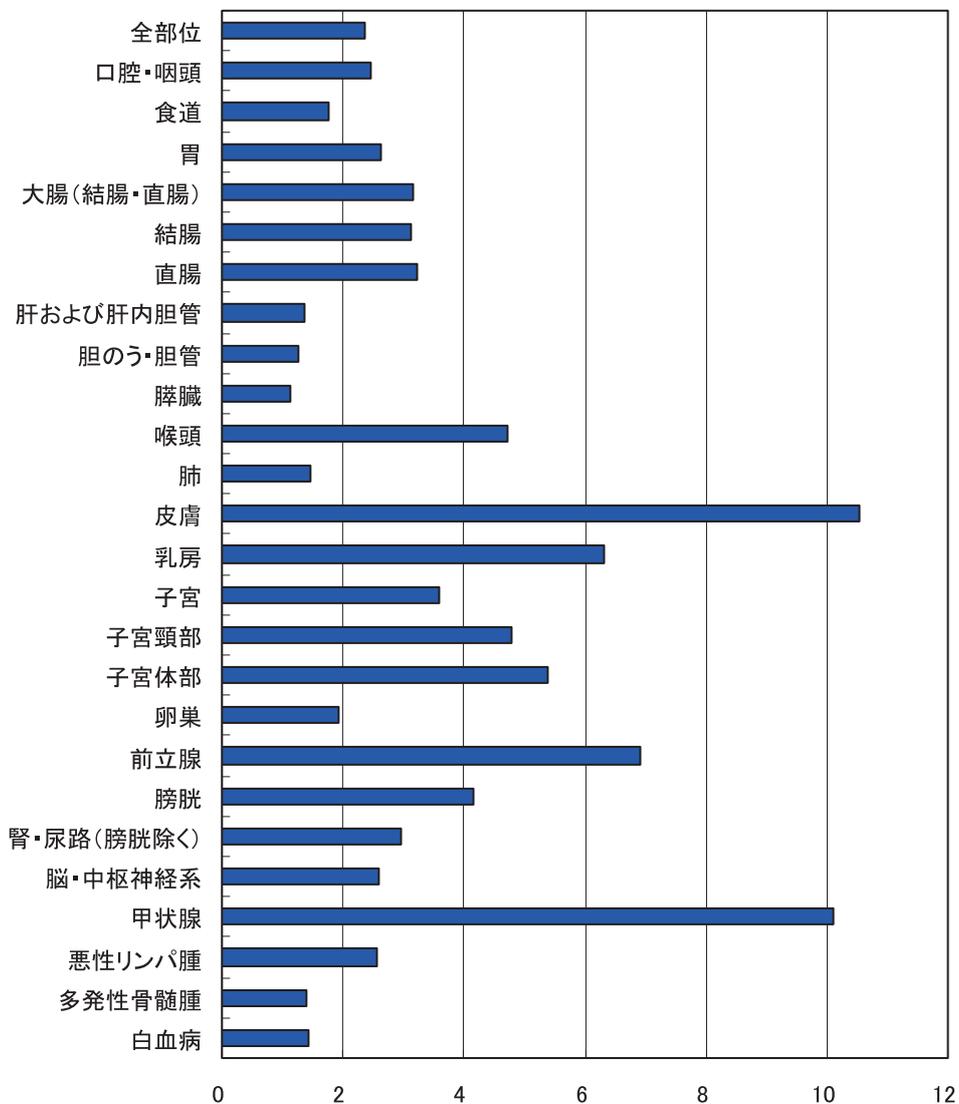


図2-2 部位別ID比

罹患数における資料源をみると臨床登録からの届出情報が62.8%と最も多く、次いで病理登録からの届出情報が57.3%であった。

表C 広島県地域がん登録罹患数における資料源ごとの数および割合（上皮内がんを除く）

罹患数	広島県地域がん登録情報 (臨床登録)	広島県腫瘍登録情報 (病理登録)	広島市地域がん登録情報 (採録情報)	死亡情報で初めて 把握された症例 (DCN)	死亡情報のみ の症例 (DCO)
17,852	11,204	10,229	789	2,799	1,131
	62.8%	57.3%	4.4%	15.7%	6.3%

(2) 部位別がん罹患数および罹患割合

がん罹患数を部位別にみると、男性では胃がんが最も多く、次いで肺がん、前立腺がんの順に多かった。女性では乳がんが最も多く、次いで胃がん、結腸がんの順に多かったが、上皮内がんを含めると、乳がんに次いで結腸がん、胃がんの順に多かった。(図2-3・図2-4、図2-5、表1-A、表1-B参照)。

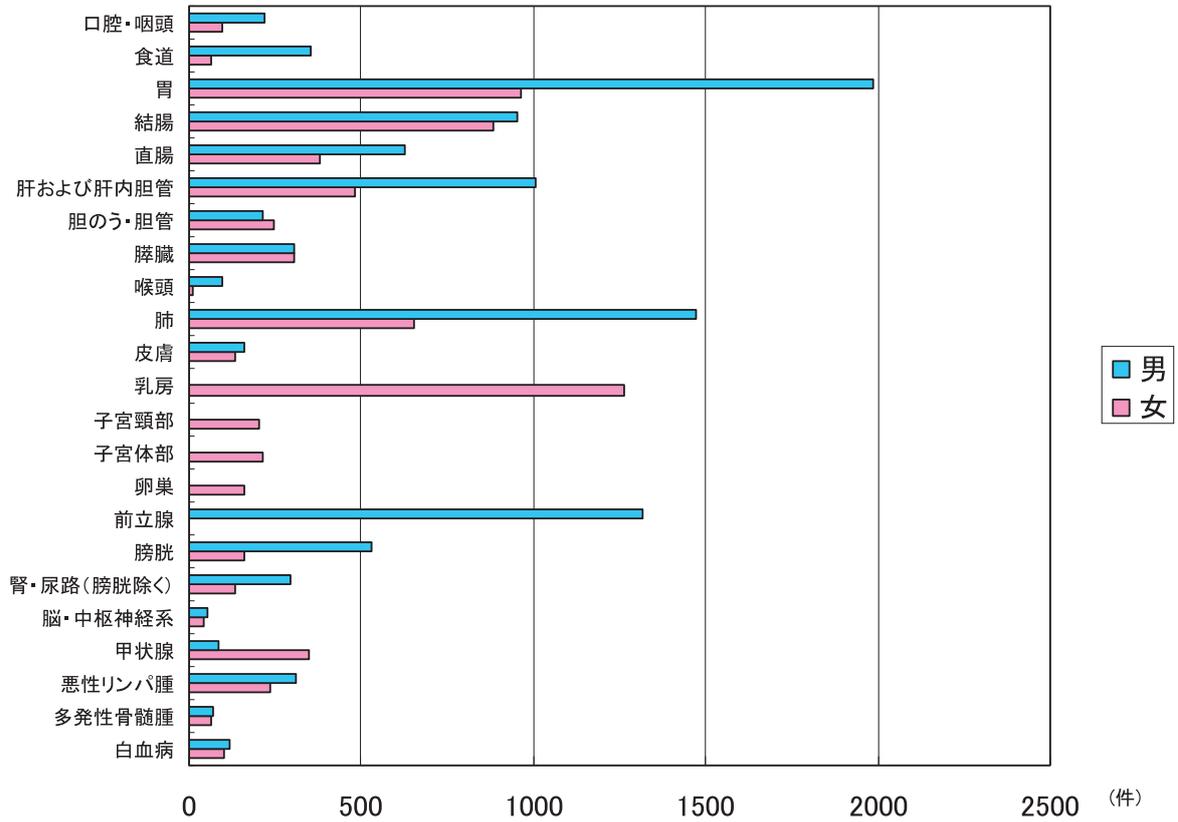


図2-3 部位別がん罹患数 (上皮内がんを除く)

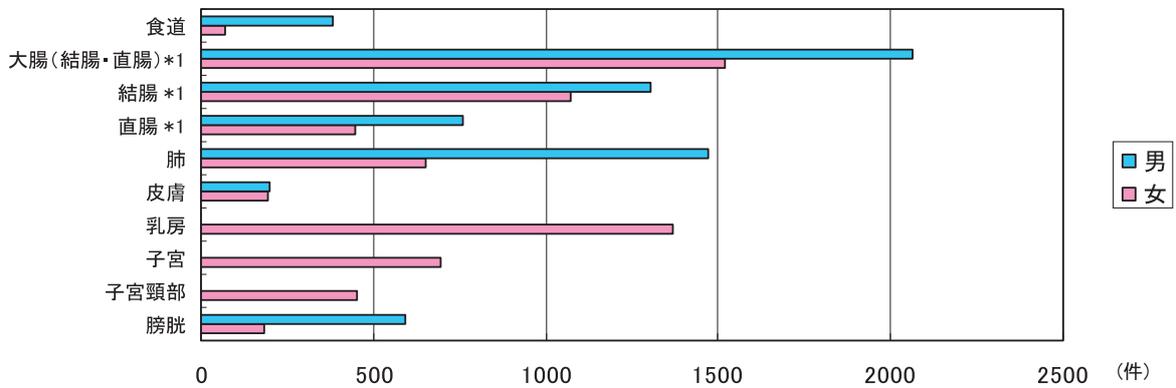


図2-4 部位別がん罹患数 (上皮内がんを含む)

*1 粘膜がんを含む

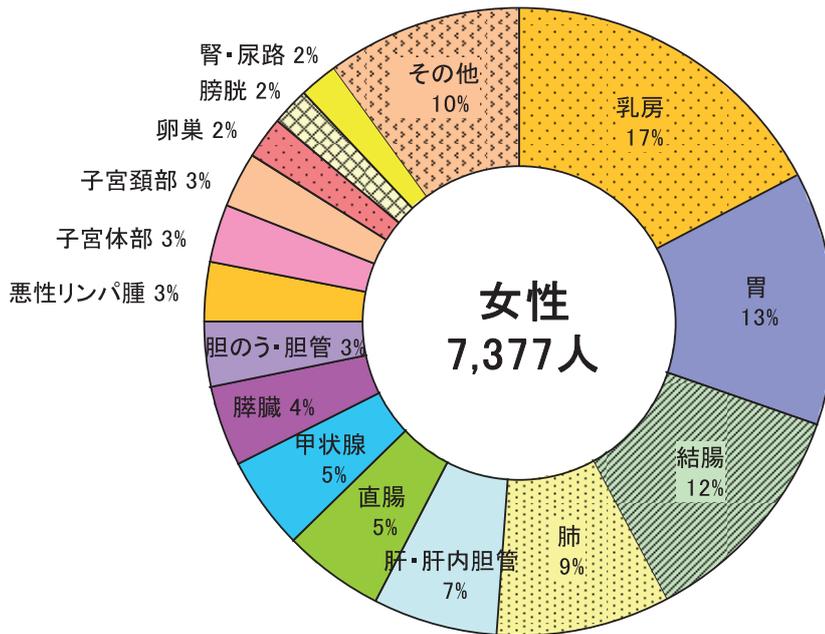
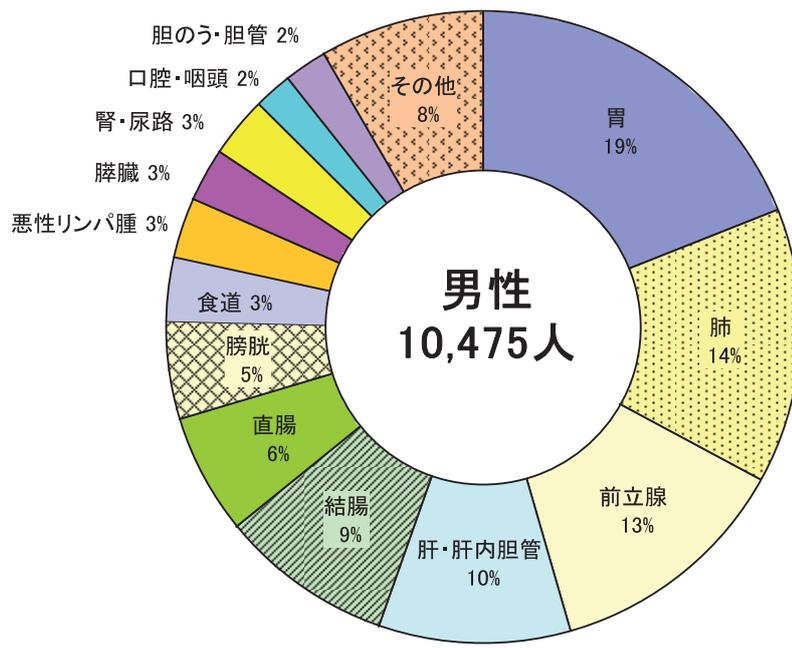


図 2 - 5 部位別がん罹患割合（上皮内がんを除く）

(3) 年齢階級別がん罹患率

全部位について性別年齢階級別にかん罹患率をみると、35～39歳、40～44歳、45～49歳の年齢階級では男性より女子の罹患率が高い。これらは子宮頸がんや乳がんの影響である。それ以上の年齢階級では女性より男性の罹患率が約2倍高かった（図2-6、表3-A、表3-B参照）。

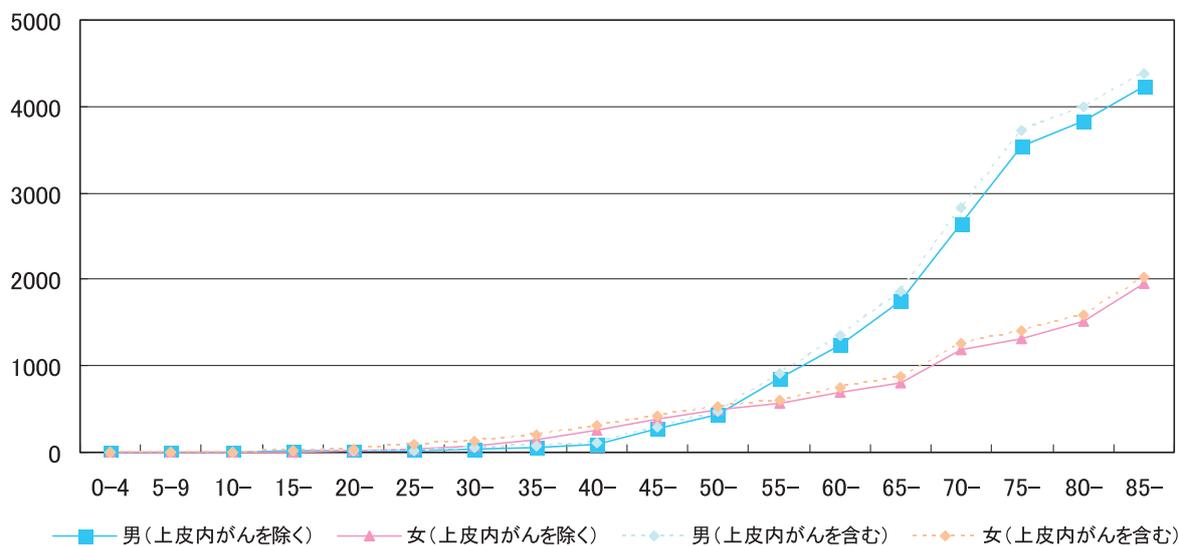


図2-6 年齢階級別がん罹患率（人口10万対）

(4) 発見経緯

部位別にごんと診断されるに至った発見経緯をみると、その他・不明が最も多かった。これは自覚症状ありで受診したものを含んでいるためである。乳がん、子宮頸がんで、がん検診の割合が高かった（図2-7、表4-A、B参照）。

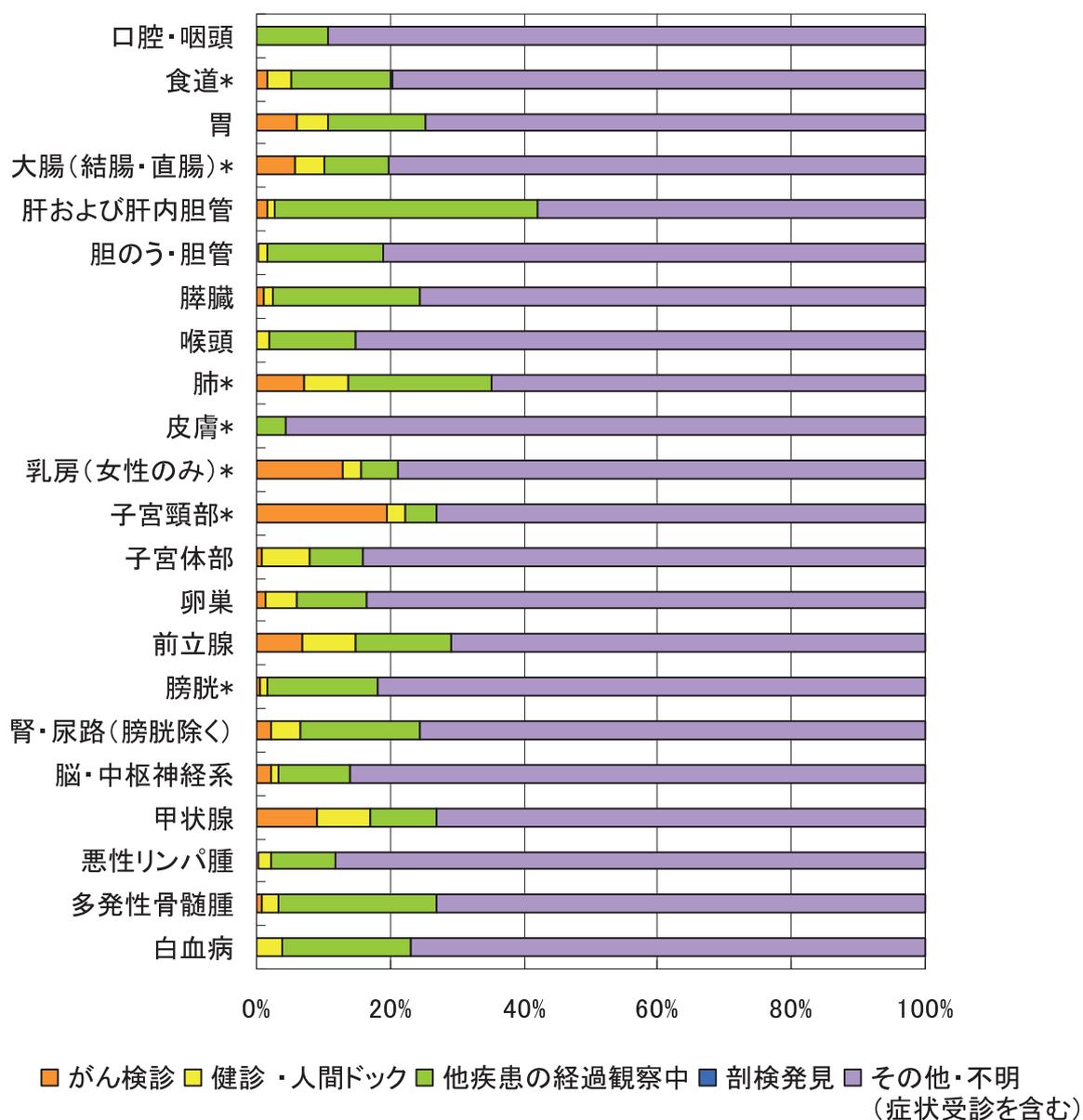


図2-7 部位別発見経緯 (DCO を除く)

* 上皮内がんを含む

(5) 臨床進行度

臨床進行度は、全部位（上皮内がんを含む）で、上皮内がんが7.4%、限局33.5%、所属リンパ節転移8.9%、隣接臓器浸潤8.7%、遠隔転移13.2%、不明が28.3%であった。部位別に臨床進行度をみると、子宮頸がんは54.7%が上皮内がんである。また、肝がん、子宮体がんでは限局割合が高く、膵臓がんや肺がんでは遠隔転移割合が高かった（図2-8、表5-A、B参照）。

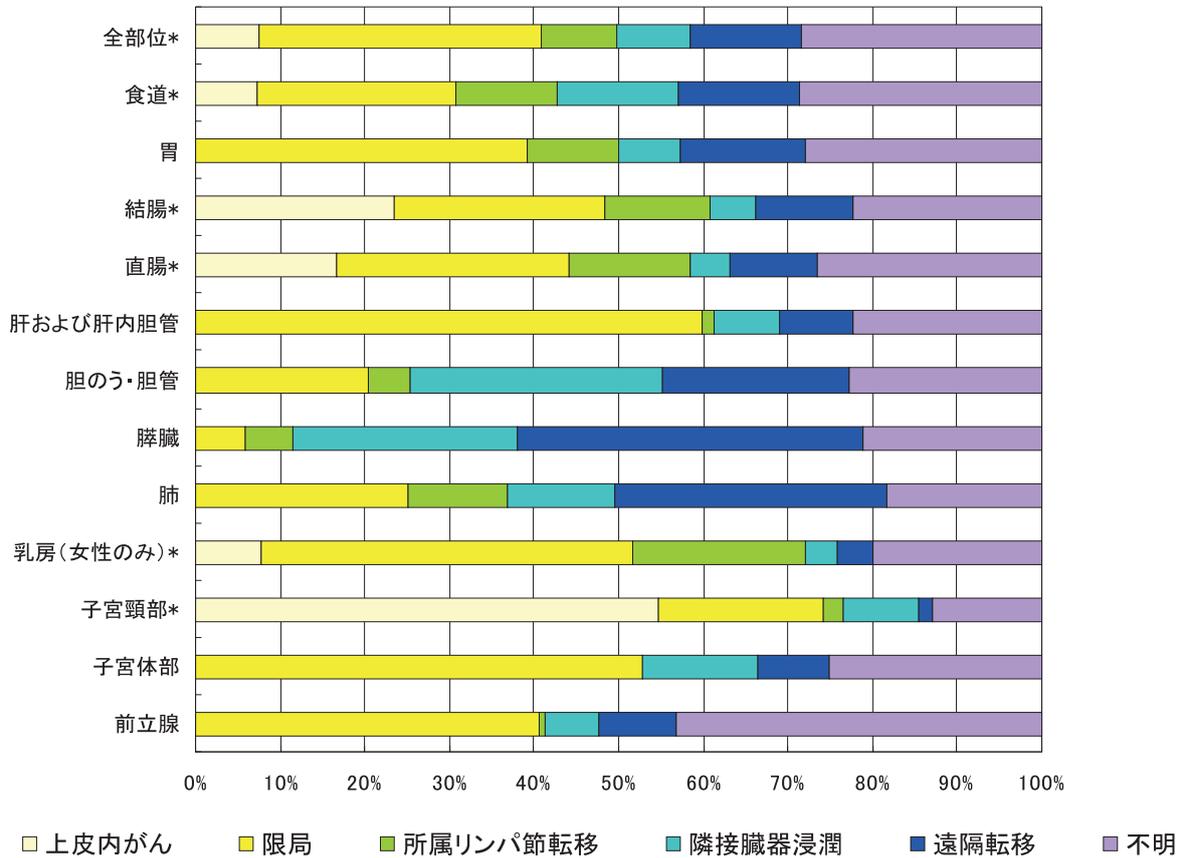


図2-8 部位別臨床進行度（対象はDCOを除く）

* 上皮内がんを含む

胃の限局には粘膜がんを含む。結腸・直腸の上皮内は粘膜がんまでを指す。

子宮頸部の上皮内はCIN3(cervical intraepithelial neoplasm 3)を含む。

(6) 受療割合

初回治療の方法について、外科的、体腔鏡的、内視鏡的手術を「切除」、放射線療法を「放射線」、化学療法、免疫療法、内分泌療法を「薬剤」、特異療法なしまたは治療方法不明を「その他・不明」として、受けた治療の割合を求めた。部位別にみると、乳がん、甲状腺がんで「切除」の割合が高く、口腔・咽頭がんや喉頭がんで放射線療法の割合が高かった。また白血病、多発性骨髄腫、卵巣がんで「薬剤」の割合が高かった（図2-9、表6-A、B参照）。

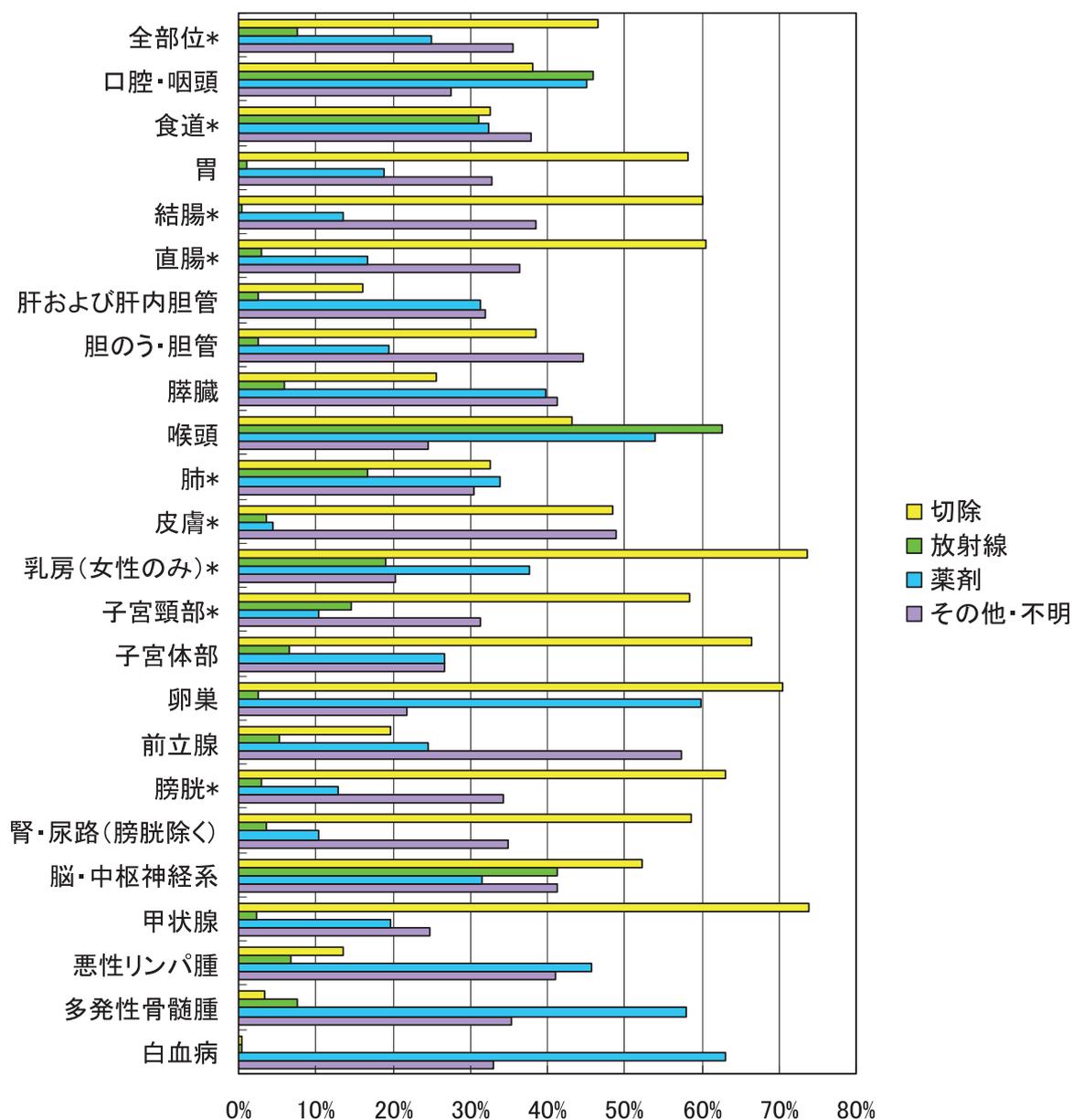


図2-9 部位別受療割合

* 上皮内がんを含む

(7) 二次保健医療圏別の登録精度と標準化罹患比（上皮内がんを除く）

二次保健医療圏別の登録精度を見ると、いずれの医療圏でも届出票の割合は58.4%～69.5%で6～7割をしめた。腫瘍登録からの病理登録情報は広島西部地区では登録率が6割から7割であったが、尾三地区で47.7%、福山・府中地区で22.6%と特に低くなった。また、DCN割合、DCO割合を見ると、広島地区ではDCN割合が10.0%、DCO割合が4.5%と最も低いが、福山・府中地区ではDCN割合が31.2%、DCO割合が12.2%と最も高くなっていた。

表D 二次医療圏別の罹患数に対する資料源の数及び割合と登録精度

医療圏 (保健所)	罹患数	広島県地域 がん登録情報 (届出情報)		広島県腫瘍 登録情報 (病理登録情報)		広島市地域 がん登録情報 (採録情報)		死亡情報で初めて 把握された症例 (DCN)		死亡情報のみの 症例 (DCO)	
広島県	17,852	11,204	62.8%	10,229	57.3%	789	4.4%	2,799	15.7%	1,131	6.3%
広島	7,789	4,703	60.4%	5,110	65.6%	789	10.1%	780	10.0%	351	4.5%
広島西	998	687	68.8%	709	71.0%	0	0.0%	119	11.9%	59	5.9%
呉	2,383	1,391	58.4%	1,570	65.9%	0	0.0%	374	15.7%	152	6.4%
広島中央	1,244	864	69.5%	795	63.9%	0	0.0%	161	12.9%	87	7.0%
尾三	1,950	1,227	62.9%	931	47.7%	0	0.0%	447	22.9%	125	6.4%
福山・府中	2,606	1,728	66.3%	588	22.6%	0	0.0%	813	31.2%	317	12.2%
備北	882	604	68.5%	526	59.6%	0	0.0%	105	11.9%	40	4.5%

二次保健医療圏別に広島県全域の罹患率を1として、標準化罹患比を見ると、呉地域が全部位で男性1.22、女性1.10と最も高く、特に胃がんや大腸がん（結腸・直腸）で高い傾向がみられた。また福山・府中地区は全部位で男性0.78、女性0.84と最も低く、胃がんや大腸がん（結腸、直腸）、子宮体がんで低い傾向が見られた。登録精度をみると、福山・府中地区は腫瘍登録からの病理登録情報が少なく、DCN割合が高いことから登録精度が低いことが標準化罹患比を低くしている要因のひとつと考えられた（図2-10、付表4-D参照）。

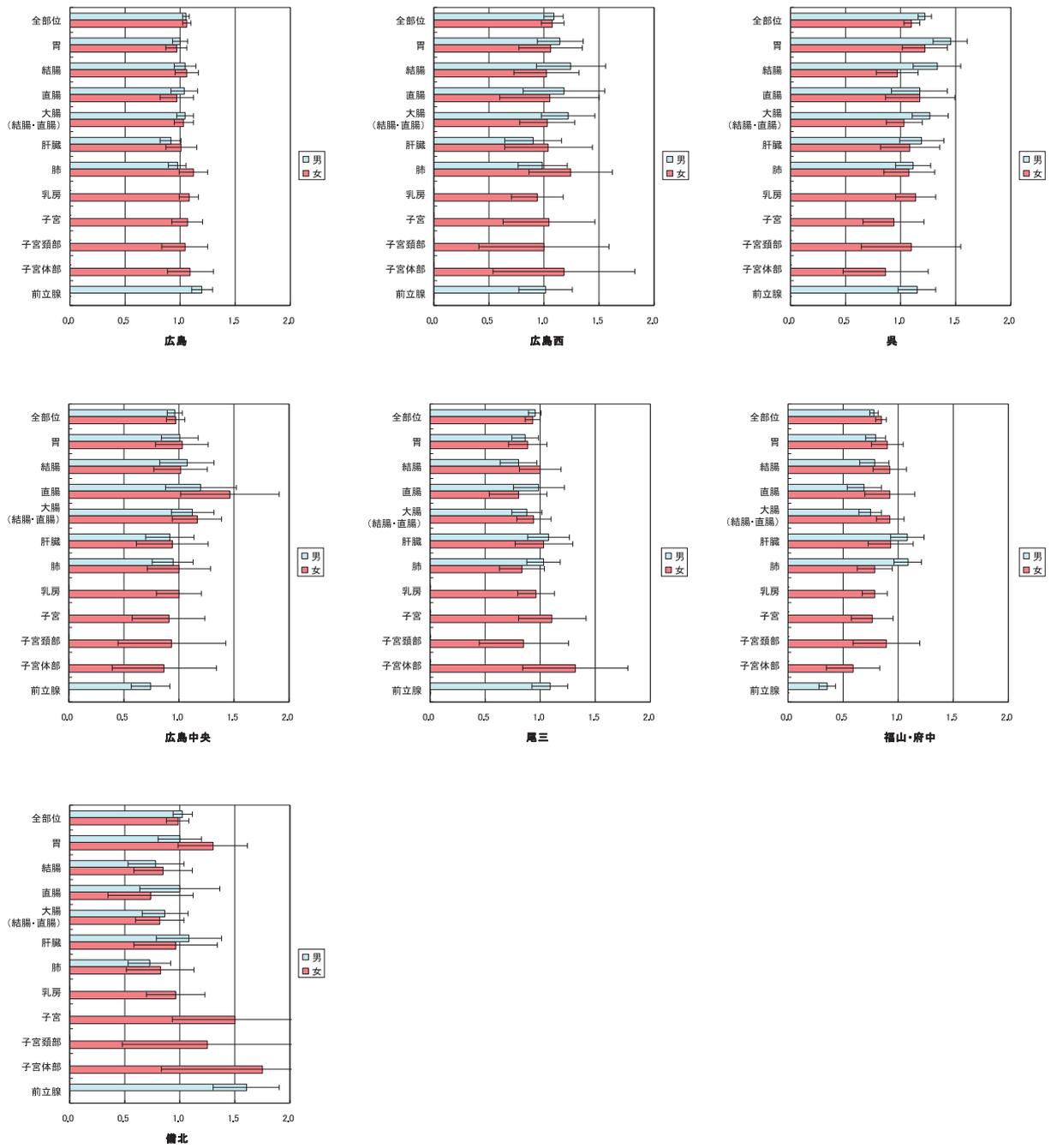


図 2-10 二次保健医療圏別の部位別標準化罹患比（広島県全域の罹患率を基準とする）

3 登録精度指標の推移

広島県および全国モニタリング集計における年齢調整罹患率と登録精度の年次推移を示す。全国と比較すると、平成16年（2004）以前は広島県の DCN 割合、DCO 割合ともに高いが、平成17年（2005）診断患者からは、DCN 割合が減少し、登録の完全性が向上している。さらに平成17年（2005）診断からは遡り調査を開始したことで、DCO 割合が著しく向上している。全国と比較して ID 比が高いのは、病理登録で詳細な病理診断情報を得られていることが大きい。

表E 広島県および全国における年齢調整罹患率および登録精度の年次推移（上皮内がんを含む）

	年齢調整罹患率 ¹⁾		DCN(%)		DCO(%)		ID比		MV(%) ³⁾	
	広島県	全国 ²⁾	広島県	全国 ²⁾	広島県	全国 ²⁾	広島県	全国 ²⁾	広島県	全国 ²⁾
2002	369.3	-	28.2 ⁴⁾	-	28.2 ⁴⁾	-	2.32 ⁴⁾	-	-	-
2003	399.1	322.3	27.5	25.0	27.5	19.5	2.64	1.91	70.8	72.8
2004	383.0	321.5	26.8	26.2	26.8	20.0	2.44	1.86	71.6	71.8
2005	411.7	328.2	18.2	21.9	9.4	17.0	2.63	1.96	94.9	73.0
2006	391.2	-	14.6	-	5.9	-	2.53	-	94.6	-

- 1) 基準人口を昭和60年(1985)日本モデル人口とした場合の年齢調整罹患率(上皮内がんを含む)
- 2) 国立がんセンターがん情報統計部が発行しているMCIJ(Monitoring of Cancer Incidence in Japan)2002～2005で報告された値を引用
- 3) 全罹患数における病理診断のある症例の割合
- 4) 上皮内がんを含まず